

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス WAKAKURA				公表日	2026/3/31
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・ホールがあり広いスペースを確保できている。	・学習時のレイアウトを考えたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・職員の体調不良の時など協力し合っている。子どもの状態により人員配置を検討している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・学習、食事、運動等で活動場所を分けて居る。	・構造化を心がけてはいるが、もっと工夫できることがありそう。 ・行っているがまだ改善できる事があると思うので話しあっていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・毎日清掃している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・こどもから申し出があった場合に、玄関横の部屋の利用を許可している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		・職員会議等で行っている。	・全員が参加できるように工夫が必要です。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・振り返りして、改善策を検討している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・毎月の職員会議は全員参加で意見が言いやすいように風通しの良い環境づくりを務めています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・外部の研修も積極的に参加している。内部研修も月1回以上行っている。	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・毎日の会議や毎月の会議で日々検討しています。	・子どもの状況に応じた最善の利益を話し合う機会を増やしていきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		職員会議で共有しています。計画書は別紙に張り付けて職員が確認しながら支援しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・「地域支援・地域連携」は、他の事業所との交流、公民館の利用、買い物学習での店舗の利用、カルチャーパークの利用等、少しずつ広がってきた。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・リーダーになる職員を中心にして、分担しより良い活動になるよう務めています。	・2026年度は中学生も増えるため、活動について常に検討していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
な 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・子どもたちのアンケートを取り、やりたい活動の募集をしています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		・個別や集団での活動がメインです。総合的な療育を実施しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・毎日職員会議を行っているが、参加できない職員は共有記録を確認して配置についている。	・口頭の連携も多いため、伝え忘れがある。常に職員全員が連携できるよう心がけていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	・送迎等で必ずしも出来るわけではないが、大切なことは必ず誰かに伝えるようにしている。 ・固定した時間を設けてはいないが、必要なときには報告し合っている。	・ICT活用していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・記録は一つにまとめている。	・時間の短縮のため要点をまとめて記録している。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8		・研修を実施した。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		・こどものやりたいことを知り、すぐにはできないが計画にいわれ実現できるように努力している。	・進めているが、支援場を増やしていきたい。 ・個別学習では、こちらで用意した課題に取り組むことが基本だが、その中でも選択の機会を作って自己決定、実行できるようにしていきたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			・学校の下校時刻変更は保護者から連絡がない場合は誤った時間でお迎えに行ってしまうため改善が必要である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	・長期休みに限られるが、とても良い機会になっていると思う。	・少なめかと思う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・お迎え時等に今日の様子を支援員がお伝えするようにしている。送迎時や電話等で保護者からの相談も受け付けている。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		・お話カフェとして学期に1回開催し、情報共有の機会を設けている。	・平日のため参加したいができない人がいた。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・随時行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7			・家族が参加できる行事の時には、きょうだい児の交流にも何らかのプランを考えていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・今年度苦情はなかったが、子どもが怪我をってしまった時の対応は丁寧に行っている。	・苦情ではないが認識の違いから丁寧に対応したが不満があったので改善が必要である。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		・Instagramを活用している。 ・アプリを活用してお便りを配信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	2	・夏祭りに招待している。	・屋外の活動を増やし、地域に活動をもっと知ってもらえるようにしたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・大地震を想定した引取訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・備蓄品を点検し、おやつでも提供している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		・状況を確認し急変時の対応について確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・保護者とおやつ提供について確認しながら安全に食事ができるように努めている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・毎年エビベン研修を実施している。感染症訓練では嘔吐物処理を実施した。 ・送迎中の大地震訓練を行った。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・安全計画を配布している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・毎月ヒヤリハットを共有し再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・虐待研修は年2回以上行っている。外部研修を活用している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		・今年度は対象者なし。		